

「愛される方法」

ルカによる福音書 7章 36節～50節

説教 野村 稔 牧師 (日本基督教団鳥居坂教会)

この人は、罪を赦してくださった主イエスに感謝して、主イエスへの愛を表しました。

主イエスがファリサイ派のシモン家で食事の席に着いておられた時、罪深い女と呼ばれる人が後ろから主イエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、主イエスの足に接吻して、香油を塗りました。

主イエスが弟子たちの足を洗ったように、足を洗うのは奴隷の仕事でしたから、この人は自ら主イエスの奴隷となってお仕えにしたということです。それを見て疑問を感じたのがこの家の主人、ファリサイ派のシモンです。「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」(39節)と。聖書の中で悪役のように登場するファリサイ派という人たち。律法を忠実に守ろうとしていたまじめな人たちです。そのために俗の世界から距離を置いて、清く正しい生活をしてきたからこそ、シモンは疑問に思いました。

主イエスは、そこで一本当に興味深いことだと思いますが一シモンを見捨てることなく、教えようとされました。簡単なたとえ話です。ある金貸しから二人の人が五百デナリオンと五十デナリオンの借金をしていた。二人とも返すお金が無かったので、金貸しは二人の借金を帳消しにしてやった。この二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか、というたとえ話です。シモンは答えました。「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います。」(43節)主イエスは「その通りだ」(43節)とお答えになって、この女の方を振り向いてシモンに言います、「この人を見ないか」(44節)。

涙を流し、主イエスの足を髪の毛でぬぐうこの人。この人の涙は何だったのでしょうか。昨年3月の大阪教会の週報の表紙に、「涙を流すという行為は、激しい感情の嵐を教えてくれる警報なのかもしれない」という文章を見つけました。確かに、この時この女が主イエスの足をぬらした涙は、後悔と悔い改めの感情の嵐を教えてくれるものなのでしょう。あの主イエスを裏切ったペトロにも共通する自分の罪、過ちに対する涙です。彼女は主イエスの後ろからそっと

近づくことしかできませんでした。おそらく自分の罪の深さを知っていた。パウロでさえ、「自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをする」(ローマ人への手紙7章15節)と言いますように、この女も律法を知っていても従うことができなかった。けれどもこの人は、自分の身を献げて、主イエスの足を洗い、奴隷となって主イエスにお仕えしました。

必要なことは、悔い改めの心を持つことであり、できないことを認めることです。その罪のために、神の子イエス・キリストが自分の身代わりとして十字架におかかりになったことを知ることです。そして感謝することです。神の愛にお応えすることです。罪深い女がしたように、主イエスを多く愛することであり、レプトン銅貨を献げたやもめがしたように、すべてを献げることです。

私が洗礼を受けたのは、1994年のクリスマス、阪神大震災の直前の12月25日でした。その前、8月だったでしょうか9月だったでしょうか、青年会の集会がありました。その中で、岡村先生と1階の大講堂で話をする時間が与えられました。その話の中で、岡村先生は私に「神さまは応答することを求めておられる。信じていけばよいのではない。信じていることを告白する必要がある」と教えてくださいました。私はその話に納得し、二つ返事で「洗礼を受けます」と応えたことを覚えています。

その通り、神は応答することのできる人格を持った存在として私たちをお造りになりました。そして神は、祈る前から私たちの心の中をすべて知っておられるにもかかわらず、祈ることをお求めになりました。

主イエスはシモンにも言われます。「あなたも五十デナリオンの借金を帳消しにしてもらったではないか」。そして「帳消しにするために、今、私はここに来た」と言って、神の前に悔い改め、感謝する心を持つことを教えてくださいました。主イエスは、神の前に涙を流し、感謝する者に言ってくださいます。「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」(50節)

(記 野村 稔)